

年頭のご挨拶

公益社団法人 日本金属学会 会長 杉 本 論

新年、明けましておめでとうございます。皆様にはご健勝で新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、6月の大阪府北部を震源とする地震、7月の西日本を中心とする豪雨、8月の台風13号、そして9月の北海道胆振東部地震、など様々な自然災害が日本を襲いました。被害にあわれた皆様の中には、依然として復旧への糸口がつかめない中で、新たな年明けを迎えられた方もいらっしゃるかと存じます。改めて心からお見舞い申し上げます。本会においても、金属及びその関連材料の学術及び科学技術に基づき自然災害やエネルギー問題を始めとする我が国が抱える諸問題に対して、真摯に貢献できる学会活動と、若手人材育成がより一層求められていると感じております。また、本年は公益社団法人として7年目の事業年度に入りますが、引き続き公益目的事業を公正かつ適切に推進していくことも重要と存じます。



以下に、昨年会長就任の挨拶にて紹介させていただいた本会の活動方針から、現状と課題の一端を報告させていただき、それを踏まえた本年の方針を述べさせていただきます。

ご存知の通り、一昨年、本会が将来においても基盤材料から先端材料までを対象とし、材料系学協会の中でもリーダーシップを発揮して世界にアピールしていく学会として発展できるよう、具体的な学会像を示した本会のビジョンを設定しました。昨年は、主として、その実現に向けたアクションを起こしてきた年でしたが、本年はさらに継続かつ推進していく年であると位置づけております。

まず、刊行事業では、会報、会誌、欧文誌は学会活動の根幹を成すものと捉え、各編集委員会では共同刊行事業も含めてさまざまな対策を講じ、その刊行を推進してきました。本年も「あたりあ」では、日本金属学会に入会し会員を継続したくなるように入門講座や講義ノート等の学術及び技術並びに情報の記事を充実させていきます。さらに、金属及び関連材料に関する情報が知りたいときに必ず手に入る情報誌であることを実現させるために、誌面や記事構成の更新等を推進して参ります。日本金属学会誌では、日本語で書かれた最新知見の発信や高度な専門性のある提案・意見交流・学理追求の場として維持向上を図るために、積極的な投稿勧誘等を進めていきます。Materials Transactionsでは、日本の代表的な材料系英文論文誌となるよう高度化するとともに、インパクトファクターの向上を目指し、ReviewやOverviewの掲載や査読の厳格化等によって掲載論文の質を向上させることを目指します。さらに、質の高い論文が掲載されていることの周知やオープン化拡大等の掲載論文引用の促進等の施策を推進する予定です。学術図書類は、既刊コンテンツのデジタル化及び理数探求科目履修支援のためのコンテンツ制作を推進していきます。

学会として重要な**講演会・講習会事業**では、講演大会を情報発信と研究者・技術者の交流の場として位置付け、立場の異なるいずれの研究者・技術者にとっても魅力あるものとなるよう分野ならびにセッション改編に取り組んできました。本年の秋期講演大会から新しい枠組みで講演募集をする予定です。一方で材料研究の多様化・細分化が進んでいることを考え、他の学協会とも連携を積極的に進めてきました。昨年5月にパシフィコ横浜で開催された自動車技術会の材料フォーラムには、本会から推薦した2名の研究者に講演をしていただき、逆に本会の9月の秋期講演大会では、自動車技術会の材料フォーラムで鑑講演をしていただいた自動車メーカーの方々に講演していただく合同シンポジウムを日本鉄鋼協会とともにスタートさせました。この企画は本年も継続していくことを3学協会を確認しています。このような取り組みによって秋期講演大会の参加者も2年連続で1,600名を超え、活気ある講演大会になってきています。さらに本年は講演大会参加者の利便性を向上させるために、講演概要集のWeb化を推進していく予定です。セミナー・シンポジウム委員会でも、昨年からスタートしたフェロー制度を利用し、本年には基礎から最新の研究や技術までを学べるセミナーの開催や次世代を担う人材の教育と育成に貢献する魅力ある講習会等を計画中です。

調査・研究事業については、我が国の材料科学を先導していくことを目指し、昨年、従来の分科会を調査研究委員会と位置付け、有効な活動が推進できるような体制強化のための再編を行いました。本年は再編した分科による活動を推進していきますが、この中で特筆すべきものに、今後の材料科学分野を担う若手研究者を中心とした研究会の発足を促すとともにこれらに対する助成、さらに若手研究者の育成を目的とした研究助成事業の開始が挙げられます。一方で、金属・材料科学分野に興味を持つ、さらに若い世代を育てることも目指しており、秋期講演大会時のWorld Materials Day Awardや春期講演大会時における企業説明会などを継続させる他、昨年からスタートさせた秋期講演大会時における高校・高専学生ポスターセッションの継続も検討していき、今後もこのような学校教育の支援や青少年向けイベントの開催、若手交流等の人材育成に関する事業を拡充していきます。国際学術交流は、従来から推進しているTMSおよびKIMとの交流等の推進に加えて、講演大会における国際セッションの開催を検討しています。

表彰・奨励事業は、会員の皆様の研究活動の意欲を高めるとともに、人材の育成にも欠かすことのできないものです。本年は各賞の授賞目的と対象を再整理し、将来の更なる発展が期待できる若手を対象とした賞の拡充等を推進していきます。

上述以外にも、本会の活動を広く世間に周知するために、広報活動を推進する体制を強化していく所存です。皆様のご協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、これまでの諸先輩およびご関係の皆様の本会へのご尽力、ご貢献に深く感謝申し上げますとともに、本会のさらなる発展および会員各位のご健勝とますますのご活躍を祈念致しまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

2019年1月1日